

時の動き

軍拡よりも考えるべきことがある

弁護士 柳 重雄

進められつつある大軍拡政治

岸田政権は、日本を戦争をする国、軍事大国へと大きく転換しようとしています。敵基地攻撃能力（反撃能力）として誤魔化そうとしています。見ても攻撃能力です。）を持つ国、世界第三位の膨大な軍事費を費やす大軍事大国への転換です。そして集団的自衛権のもとで、日本の国が攻められていなくとも台湾有事等でアメリカと一体となつて他国を攻撃し戦争をする国になろうとしています。

軍備増強による抑止力により国民を守るなどと説明しますが、軍事予算を

増額し、敵基地攻撃能力を持つ国に転換すれば、相手国も更に軍備を増強するでしょうし、もし、たった一発でも攻撃すれば当然のことながら相手国は更に反撃をしてくるでしょう。どう考えても戦争の惨禍をもたらす最悪の選択肢に向けて突き進んでいるとしか思えません。

何故、日本は二度と戦争を起こさない、そのために軍備を持たないという非戦、非軍事の憲法9条を持つ国であることを考えないのでしょいか。せつかくの平和のための道しるべを活かそうとせず、それとは真逆の最悪の道に進もうとしているのだとしか言いよう

がありません。

我が国日本が考えるべきこと

ロシアのウクライナ侵攻を通じて重要なことは国連憲章、国際法違反の軍事侵攻を一刻も早く止めさせること、そのような侵攻が二度と起きないよう平和な関係を築いて行くことであつて、攻められたらたいへんだから我が国も軍備を増強しようなどということではありません。アメリカとの軍事同盟に則つてアメリカの望むとおりに軍備増強に狂奔する日本の有り様は根本的に間違っています。



日本は食料もエネルギーもそのほとんどを外国に依存し、原発を国中にか

かえている国でもあります。特に食料自給率37%、日本で消費される食料の大半は中国、アメリカ等の外国からの輸入に依存している国なのです。

いくら軍備を増強し、ミサイル攻撃等による敵の基地等を攻撃できる能力を持っても、いざ戦争ともなれば、日本国中が直ちに飢餓に襲われ、エネルギーも枯渇し、原発も攻撃されるなど、日本国そのものが独立国として存立できなくなってしまうのではないかと考えてなりません。軍事拡大する以前に考えるべきことが多くあるはずです。

進む軍事大国化。「自衛隊」の訓練

いざ戦争ともなれば、日本国中が直ちに飢餓に襲われ、エネルギーも枯渇し、原発も攻撃されるなど、日本国そのものが独立国として存立できなくなってしまうのではないかと考えてなりません。軍事拡大する以前に考えるべきことが多くあるはずです。

国民生活安定のための政治を

軍事大国化は日本が戦争に

巻き込まれる最悪の道です。まさしく日本を滅ぼす売国の道です。日本の現在の、将来を真剣に考えるならば、まず何よりも食料自給率を本気で向上させ、そのための日本の農業等食料生産を活性化させること、そして、現在過酷な物価上昇の中で苦しむ国民、労働者のための福祉、教育、生活支援など憲法25条を国民の生活の中に活かすべきこと、そのための予算こそ増額するべきです。

大軍拡予算、世界第三位の大軍拡予算などの余裕はとてもないはずで、まるで狂気のようにひたすらアメリカとの軍事同盟に従って大軍事国家を目指すという政治に対して、私達は大きな声で心から怒っていることを示して行きたいと思えます。

(やなぎ しげお)